



歴史文化のまちづくり総合推進事業

(平成23年8月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

本市の歴史は古く、旧石器時代まで遡るものであり、市内には多くの文化財が残されています。市では、これらの文化財を市の発展に有用な資産として活かし、歴史文化のまちづくりを推進するために、平成22年度に「高岡市歴史文化基本構想（以下「基本構想」）」を策定しました。本計画では、この基本構想の将来像や基本方針等に基づき以下の事業を実施することとしています。

各事業は市や民間団体等から構成される実行委員会が実施し、市が全体計画の企画・調整、市及び関係機関が指導・助言にあたっています。

2 補助事業名

- ①文化財とものづくりのまち活性化事業
- ②伝統文化継承事業
- ③茶道等伝統文化継承事業

3 補助事業者名

- ①文化財とものづくりのまち活性化事業実行委員会
- ②高岡市和装文化・伝統文化推進委員会
- ③立春古城の杜茶会実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①文化財とものづくりのまち活性化事業

本市の文化財は、高岡銅器や高岡漆器など市に息づくものづくりの技によって生み出され、継承されてきたものです。本事業では、このサイクルに再びスポットをあて、ものづくりの技と文化財の相乗効果を図り、文化財の保存のみならず、ものづくり技術の継承及び技術者の育成、郷土教育の推進等による地域活性化を目指しています。各事業の目的及び主な内容は以下のとおりです。

○伏木曳山祭用具修理事業

「伏木神社春季例大祭の祭礼行事」の保存・継承及び伝統技術者の育成を目的に、祭礼用具等の修理を行いました。平成23年度は、上町山車の鏡板及び幕押え、寶路町山車の鏡板、母衣武者行列の太刀等用具の修理を行いました。修理は地元の伝統技術者で組織される高岡地域文化財等修理協会が行うことで、文化財修理技術の向上等に努めました。



上町山車の鏡板の彫刻新調（漆塗り作業）の様子

○菅笠づくり後継者養成事業・菅笠づくりに関する調査・研究事業

重要無形民俗文化財「越中福岡の菅笠製作技術」の保存・継承及び地場産業の活性化等を目的に、菅笠づくりの体験教室等を実施しました。平成23年度は、保存会会員による指導のもと、笠縫いの体験教室と笠骨づくりの見学会を開催しました。また、菅笠製作に関する失われた技術の解明・伝承を目指し、調査・研究及び資料の収集、台帳の整備、製作工程の復原作業を行いました。



菅笠づくり体験教室（笠縫い作業）の様子

○山車製作技術継承事業

重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山」の山車には金工や漆工などの優れた技が施されています。近年、山車に損傷等がみられることから、修理が必要となっています。また、車輪等の構造も大部分が不明のままでした。

そこで、本事業では、車輪等の構造を明らかにしながら、車輪見本及び木部構造見本を製作し、山車の製作に関する知識と技術の継承を目指しました。平成23年度は、平成22年度に文化庁の委託を受け作成した図面をもとに、車輪見本製作のうち木工と漆工を実施しました。

○伝統工芸修理技術者養成事業

伝統工芸を用いた文化財修理の技術・知識の習得及び技術者の育成等を目的に講習会を実施しました。平成23年度は、金工に焦点をあて、人間国宝の桂盛仁氏による講演会や、地元の伝統工芸技術者を講師とした御車山の金具製作に関する講習会・実習会を開催しました。



講師から「打ち出し」の技法を学ぶ様子

②伝統文化継承事業

次世代を担う子どもたちに地域の文化や歴史、きもの

着、礼儀作法、道徳等を伝えることを目的とした事業を実施しました。

平成23年度は、きもの着や茶道等の伝統文化の体験を中心に3つの事業を行いました。「子供に伝えるきもの着と礼法教室」では、ゆかたの着や帯の結び方、挨拶の仕方、お茶の出し方頂き方等の体験教室を行いました。「きもの着体験」では、大学生等を対象にきもの着を体験してもらいました。



子供に伝えるきもの着と礼法教室の様子

③茶道等伝統文化継承事業

平成22年度まで実施した「伝統文化茶道こども教室(文化庁委嘱事業)」の内容等を引き継ぎながら、茶道・雅楽等の継承及び高岡の未来を担う子どもや市民への伝統文化の普及・啓発等を目的とする事業を実施しました。

平成23年度は、子供や親子を対象に茶道や雅楽、銅器・漆器に関する体験学習を実施しました。また、各種イベントの茶席等で成果を発表しました。このほか、高岡城跡内に建つ射水神社において「立春古城の杜茶会」～雅楽と茶道のコラボ～を開催しお茶席等を設けました。

- ・濃茶席－中学生による点前披露と運びによる学習発表
- ・寄付席－小学生による呈茶
- ・雅楽演奏席－富山県神社庁雅楽会による雅楽の演奏
- ・春香茶席－市内で採れたよもぎ、菜の花等で創った煎茶



立春古城の杜茶会（濃茶席）の様子

5 計画の実施の効果

①文化財とものづくりのまち活性化事業

○伏木曳山祭用具修理事業

用具等の修理が進み祭礼の保存・継承に寄与しました。地元伝統技術者の文化財修理技術の向上・継承に繋がりました。

○菅笠づくり後継者養成事業・菅笠づくりに関する調査・研究事業

体験教室と見学会に多くの参加があり、菅笠製作技術保持者の底辺拡大に繋がりました。菅笠製作に関する資料収集により、道具類の散逸防止及び製作

技術に関する情報集約に繋がりました。また、時代考証をふまえた製品の再現ができたことで、新たな販路の拡大がみえはじめました。

○山車製作技術継承事業

地元の伝統技術者からなる高岡地域文化財等修理協会が車輪の製作等を行ったことで、会員の御車山に関する知識習得、伝統技術の継承に繋がりました。車輪製作における多分野との連携の必要性を認知する機会となりました。

○伝統工芸修理技術者育成事業

本事業を通じ5人の若手技術者が修理技術を学びました。参加者からは、講師に熱心に質問するなど積極的に技術を継承しようとする姿が見られました。人間国宝 桂 盛仁氏にも実習等に加わっていただいたことで、他地域の彫金技術や高岡では失われた技法にも触れる機会ができ、地元技術者にとっても意義深いものとなりました。

②伝統文化継承事業

体験教室等に多くの参加があり、子どもたちがきもの着や礼儀、伝統文化に興味を持ち、学ぶよい機会となりました。「きもの着体験」では、歴史的な建物が建ち並ぶ金屋町を舞台としたことで、町への観光客増加にも寄与しました。

③茶道等伝統文化継承事業

体験学習や立春古城の杜茶会に県内から大変多くの参加があり、伝統文化の普及・啓発・継承に繋がりました。また、高岡城跡等の文化財を舞台としたことで、市民が文化財に触れるよい機会ともなり、今後の歴史文化のまちづくりにも有意義なものとなりました。

[全体の効果]

- ・祭礼や伝統文化の継承者、修理技術者の育成などが進み、文化財の保存・継承に繋がりました。
- ・体験事業や見学会等を通じ、市民の伝統文化や文化財に対する理解が深まり、普及啓発がなされたことで、市全体に歴史文化のまちづくりが浸透してきました。
- ・伝統技術の解明、伝統技術者の育成、新たな製品の開発等が進み、地場産業全体の活性化に繋がりました。

6 今後の予定

平成24年度以降は、一部の事業を除き事業の内容や対象を変更しながら、継続して事業に取り組むこととしています。平成25年度に成果品が完成予定の事業もあり、観光等への活用を検討しています。



金沢市文化遺産活用推進計画

(平成23年8月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

金沢市の多様で豊かな文化遺産を活用して、伝統行事・伝統芸能の公開や後継者育成など地域の特色ある総合的な取り組みを行うことで、文化振興とともに観光振興・地域経済の活性化を担っています。

実施体制については、伝統芸能などを保持している団体で、この計画に賛同する団体をもって構成しています。

2 補助事業名

・金沢市文化遺産活用推進計画

3 補助事業者名

・金沢市文化遺産活用推進実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①情報発信事業

○金沢クラフト・ツーリズム発信事業

金沢では、加賀藩主前田家により進められた文化奨励策により茶の湯や能が有力町人まで広まり、茶道具や焼物、金沢漆器などが発達し、そして今もお、人々の暮らしの中に息づいています。これらが街の魅力を高めていることが認められ平成21年6月にユネスコが創設した「創造都市ネットワーク」に世界で初めてクラフト分野で登録されました。

この登録を機に、金沢に受け継がれた伝統工芸・伝統文化を「金沢ならではの観光資源」と位置付け、金沢観光と合わせて、伝統工芸や伝統文化の体験を組み合わせた旅を「金沢クラフト・ツーリズム」と名付け、金沢特有の旅として発信していくことになりました。

そこで、金沢独自の文化にふれる「金沢クラフト・ツーリズム」を具体的に紹介する情報発信ツールを作成し、知名度のアップや旅行商品造成に向け、パンフレットやDVDなどを作成しました。

伝統工芸や伝統文化には「敷居が高い」、「高級」というイメージがありますが、身近に感じてもらえるように、若い世代もターゲットに入れた親しみやすい情報発信ツールを作成しました。

また、単なる伝統工芸・伝統文化の紹介ではなく、市内に点在する体験施設を観光と組み合わせたモデルコースをテーマ別に16コース作成しました。このモデルコースはパンフレットやホームページで紹介

し、ホームページからはコースごとに1枚の紙で印刷し、持ち運びに便利になっており、観光客からは旅のプランを立てやすいと好評を得ています。

DVD映像は、地元の伝統工芸販売店頭、観光案内所などで放映し、伝統工芸・伝統文化の紹介、体験を合わせた金沢観光の紹介を行っています。

②人材育成事業

○加賀獅子保存継承事業・伝統文化後継者育成事業

金沢市若宮地区で伝統の加賀獅子（金沢市指定無形民俗文化財）を平成22年に28年ぶりに復活させており、その伝統の舞・技を保存・継承するため、技術取得勉強会を行いました。また地域の多様な伝統文化の後継者育成事業を行いました。

③普及事業

○金沢クラフト・ツーリズム発信事業

金沢の伝統文化・伝統工芸の普及啓発のため、旅行関係会社に金沢クラフト・ツーリズムを体験していただき、観光資源等としての醸成を図りました。

首都圏、中京圏、関西圏よりエージェントを招請し、金箔工芸体験、加賀友禅の絵付け体験や丸谷焼の工房見学、金沢能楽美術館での能面着装などを行い、金沢クラフト・ツーリズムを実際に体験してもらいました。

○加賀獅子保存継承事業

金沢市指定無形民俗文化財「加賀獅子」の伝承と普及を目的として、加賀獅子共演会を開催し、市内各保存会に伝わる技芸の披露や、地域や流派を越えて交流を図りました。また、一般公開形式で実施し、演舞の他、獅子舞体験教室など、広く市民に加賀獅子にふれあうことのできる場を提供しました。

平成23年度は、加賀獅子に加え、東日本大震災によって甚大な被害を被った東北地方から「澤目獅子踊り（盛岡市指定文化財）」を招聘し、金沢の獅子舞と互いの技と芸を披露しました。

○加賀万歳・古典万歳連携公開事業

金沢のお正月に欠かすことのできない風物誌である金沢市指定無形民俗文化財「加賀万歳」の後継者育成及び技術力向上を目的として、加賀万歳の源流とされる国重要無形民俗文化財「越前万歳」（福井県越前市）を招聘して共演会を開催しました。金沢能楽美術館を会場に加賀万歳8名、越前万歳8名が伝統の技を披露しました。

④継承事業

○金沢クラフト・ツーリズム発信事業

個人旅行者をターゲットにした「金沢クラフト・ツーリズム」の認知度向上を図るため、モニターツアーの実施を行いました。ただ、単なるモニターツアーの実施ではなく、ブログによる発信も兼ねたモニターツアーを実施することで、一般観光客目線による情報発信も目的としました。モニターツアーでは、金箔工芸体験や加賀友禅の絵付け体験、加賀八幡起上り絵付け体験などを行い、金沢クラフト・ツーリズムを紹介しました。

○金沢伝統箔技術継承・情報発信事業

日本国内における金箔の製造はその殆どが金沢で行われおり、日本の重要文化財の補修・修復の他、仏壇や工芸品には欠かせないものです。この金沢の伝統金箔には手漉きの専用打ち紙が必須であり、特に「澄工程」と呼ばれる時に必要な「澄打紙」の供給が近年途絶えはじめてきております。この紙の供給が途絶えることは金箔の製造ができなくなることを意味します。

そこで、澄打紙の安定供給に向けて、従来紙との比較検討による製紙技術調査及び試し漉き、試験紙の紙仕込み実験等を実施しました。

観光という視点から体験することで、「敷居が高い」というイメージを払拭し、親しみを持ってもらうことができました。これにより、金沢の伝統工芸や伝統文化への理解が深まり、関心を持つ人の裾野が広がりました。また、伝統工芸品の購買意欲拡大となり、地域経済の活性化にも繋がっています。

②人材育成事業

○加賀獅子保存継承事業・伝統文化後継者育成事業

加賀獅子を復活させ、その伝統の舞・技を保存・継承する活動を通して、交流が活発となり、地域のコミュニティが醸成され、加賀獅子を身近に感じ、また復活に感動し地域のつながりの大切さを知ることができました。

今後は技術取得勉強会により、2～3年後を目標に独自で演舞指導が出来る人材を養成し、定期的に若宮神社の秋祭りに獅子舞を奉納し、地域の活性化に保存会として積極的に取り組むとともに、観光資源として県内外の集客に寄与し、地域の活性化を図り、伝統文化の保護に努めていきます。

伝統文化後継者育成事業においては、地域の民謡や能楽など地域伝統文化の担い手育成のために小中学生向けに計画的に後継者育成を行うことができました。

5 計画の実施の効果

①情報発信事業

○金沢クラフト・ツーリズム発信事業

情報発信ツールを作成したことで、観光プロモーションのツールとして活用でき、金沢観光のひとつの柱として「金沢クラフト・ツーリズム」を売り込むことができました。地元企業も営業ツールとして活用しています。また、市内外の観光案内所や市内施設に設置することで、観光客への認知度を向上させることができました。



作成したパンフレット・DVD

③普及事業

○金沢クラフト・ツーリズム発信事業

今回のエージェント招請により、プロの目線による意見を聴集することができ、今後の体験プログラムの開発やエージェントへのプロモーション方法、旅行商品造成への有益な情報を得ました。また、旅行商品造成担当者に直接、金沢ならではの伝統工芸や伝統芸能の体験型観光を体験していただくことで、金沢クラフト・ツーリズムの認知度向上に繋がりが、平成24年度の旅行商品造成に向けて、旅行会社より問い合わせがきたり、実際に、旅行商品に組み



エージェント招請 工房見学

込んでいただくことができました。また、地元観光事業社や金沢市とエージェントとのつながりを構築することができ、今後の観光プロモーションや伝統工芸、伝統芸能の体験型観光の推進や普及啓発に繋げることができました。

○加賀獅子保存継承事業

一般公開で演舞、体験教室等を行うことにより、来場者には、地域の文化財を身近に感じてもらうことができ、文化遺産への理解や関心を得ることが出来ました。また、このような事業をとおし、観光資源として県内外の集客を図ることが可能となります。



加賀獅子

○加賀万歳・古典万歳連携公開事業

今回、共演会により加賀万歳の特色と魅力を広く市民に公開したことで後継者育成及び技術力向上に資することができました。「越前万歳」は、加賀万歳の原型とされ、この万歳と共演することにより、加賀万歳の演目の持つ意義を改めて認識し、舞や歌い方の原型を知り、技術力向上に資することができました。併せて観客に郷土の伝統芸能に直接触れ、大いに喜んでもらい、金沢の伝統芸能を情報発信できました。また、若手後継者の発表を他の万歳とと



加賀万歳

もに行う貴重な場を設けることで、相互に交流し、改めて技術力の向上に向けた意識が高まりました。

今回の成果をふまえ、より効果的に加賀万歳と古典万歳を公開し、金沢の伝統芸能の魅力を高めるとともに、加賀万歳の伝承に確固たる基盤を作り、地域文化の活性化に寄与、貢献していきます。また、加賀万歳公開の機会を増やすとともに、会員数を増やし、後継者の着実な養成を図っていきます。

④継承事業

○金沢クラフト・ツーリズム発信事業

エージェントによるとプロ目線による旅行の提案も大事ですが、実際に体験した人の口コミの効果も絶大であり、口コミから評判が上がれば、旅行商品にも組み込まれやすいとのご意見をいただきましたが、今回ブロガーによるモニターツアーを実施することで、実際に金沢クラフト・ツーリズムを体験したブロガー自身による体験記としての口コミ効果を得ました。

金沢の伝統工芸や伝統芸能の体験型観光は、意外に知られておらず、実際に体験することで、興味関心を持ってもらうことができ、何度来ても楽しめる金沢としてリピーターへ繋がる手応えを得られました。金沢ならではの体験を旅の思い出として、世界に一つの作品を作るという点が金沢クラフト・ツーリズムの醍醐味であり、金沢の伝統工芸にふれるきっかけとして認知度向上、購買力向上に繋がりました。



ブロガー招請 加賀友禅絵付け体験

○金沢伝統箔技術継承・情報発信事業

製紙がほぼ途絶えつつある澄打紙の性状、機能についての調査によりこの紙の再興を達成するために、稲藁紙に実績のある山梨県西嶋和紙工業協同組合に協力要請を行い、共同で研究を進めました。現時点ではまだ試行中ですが、紙の安定的な供給が達成することにより、地域の文化遺産の保存や継承につながり、地域のブランド向上につながるようになります。



澄打紙の試行製紙

6 今後の予定

23年度事業に継続して、24、25年度と地域の「たから」である文化遺産を積極的に活用した様々な事業を展開し、国内外の観光客の増加や地域活性化等につなげるよう計画しています。



勝山市の文化財を活かした観光振興・地域活性化事業

(平成23年8月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

①勝山左義長を活かした観光振興・地域活性化事業

福井県勝山市は平成14年から実施している「勝山エコミュージアム推進計画」において再認識した地域が誇る歴史や文化財などの魅力を活かすために、平成23年勝山市観光振興ビジョンの基本理念に「市民は全員学芸員！来て、観て、触れて、魅力満載！まちはまるごと博物館」を掲げています。「国史跡白山平泉寺旧境内」の発掘整備や、地質・地形遺産をアピールする「恐竜溪谷ふくいジオパーク」、勝山市に根ざす伝統文化である「左義長まつり」を推進し、これら地域資源を勝山市の個性としてさらに磨き、観光振興と地域活性化に活かす計画をしています。

しかしながら、少子高齢化と街なかの空洞化により、街なかで行う勝山左義長まつりの担い手が高齢化・固定化し、地域の財産である「伝統文化や技の継承」が危機に直面しています。また、観光関係組織の連携不足により、地域の宝を活かしきれていないのが現状です。伝統文化の確実な継承と後継者育成、そして地域連携によるコミュニティづくりは早急に解決しなければならない課題だと考えます。

そのために、勝山の人たちが愛着を込めて「サギッチョ」と呼ぶ勝山左義長まつりを連携推進力の核と位置づけ、「勝山左義長文化財推進協議会」を立ち上げ、地域の連携強化による広域観光を推進。近年、地域固有文化に触れる観光への関心が高まるなか、奇祭と呼ばれる「勝山左義長」の強いアイデンティティとしての魅力をさらに高め情報発信することで、地域内での相乗効果を生み出し地域活性化につなげます。また当事業を実施することで、勝山の郷土への誇りを醸成させ、次世代に継承する想いを共有し高めていくことができると考えます。

本事業については、福井県勝山市が全体計画の企画、調整、事業の指導を行います。

主な担当課、役割

- ・勝山市教育委員会史蹟整備課：文化財の取扱などに関する指導など
- ・勝山市商工観光部観光政策課：観光業務に関する連携

また、事業の実施については、次の団体が実施します。

- ・勝山左義長まつり実行委員会：事業全体の推進
- ・福井県教育庁：文化財の取扱などに関する意見・指導
- ・福井県観光営業部：観光業務に関する意見・指導
- ・福井テレビ：映像・記録に関する事業の遂行

②史跡平泉寺の総合整備事業

白山信仰の拠点寺院であった国史跡白山平泉寺旧境内^{はいくさんへいせんじきゅうけい}では、平成元年に始まった発掘調査によって、中世では国内最大級の石畳道や「六千坊」と呼ばれる多くの坊院（僧侶の屋敷）群などがみつかっています。

しかし、このような学術的に貴重な成果は、一般にはほとんど知られていませんでした。そこで、今回の事業では、ハード面の整備を行い、これまでの調査の成果を来訪者に伝え、史跡を散策してもらえそうな仕掛けづくりを行いました。

まず、発掘された坊院（門・土塀）の復元や坊院、見学路、サイン等の整備によって史跡に来訪者が訪れやすい環境を整えました。また、白山平泉寺の歴史、文化、自然への理解や関心を深める拠点として、ガイダンス施設「白山平泉寺歴史探遊館まほろば」を建設しました。まほろばでは、来訪者の案内にとどまらず、平泉寺に興味を持つ人々や地域の住民が文化財を活かしたまちづくりを進めるための拠点としての活用や情報発信も行う予定です。

実施体制は以下のとおりです。

- ・福井県勝山市教育委員会

2 補助事業名

- ①勝山左義長を活かした観光振興・地域活性化事業
- ②史跡平泉寺の総合整備事業

3 補助事業者名

- ①勝山左義長文化財推進協議会
- ②勝山市

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①勝山左義長を活かした観光振興・地域活性化事業

勝山市観光振興ビジョン（平成23年度策定）を踏まえ、次の事業を実施します。

- 勝山左義長入門書の製作とボランティアガイド研修会の実施

研修テキストとしての勝山左義長入門書を活用した研修会を開催、保存と継承の意義を理解してもらい、文化遺産を語り引き継いでいく地域ボランティアガイドを育成します。勝山文化財への理解を深め、地元文化を語り、引き継いでいく人材育成につなげます。

- 勝山左義長写真撮影・PR用写真パネルの製作

左義長まつり当日にプロのカメラマン撮影による記録写真のデジタル化を行い写真パネルを作成し、県内でのお囃子キャラバンによる左義長の普及啓発に使用するとともに、県内外の勝山フェアや展覧会



左義長囃子の様子



子ども囃子の様子

でのPRツールとして利活用します。

○文化遺産「勝山左義長」の価値を高める映像制作

左義長を地域の力で作り守っていく人々の姿を中心に伝統文化を地元団体と共同制作・映像化します。テレビ番組で勝山左義長と勝山の歴史・文化を伝えることで、県内全体の文化財への理解と関心を高めます。地域ブランド価値が向上し、観光客増など地域活性化が期待できます。また地元の地域に対する誇りを育て、時代を担う人材育成につながります。



左義長講習会の様子



祭りの雰囲気



絵行燈



絵行燈



祭りの雰囲気



作り物



勝山左義長解説書

○左義長おはやし講習会

勝山左義長お囃子の担い手の底辺拡大のため定期的にお囃子講習会を行います。文化財保存・後継者養成とともに勝山左義長文化継承の自主性を育みます。

○絵行燈・作り物の冊子の製作

勝山左義長の魅力である絵行燈と作り物を冊子化し、観光客等により勝山左義長の魅力を知ってもらえます。

○スタンプラリー事業

観光客がラリーマップを持ち、勝山左義長13区を

中心に勝山市内を巡るスタンプラリーを実施します。全て巡ると市内全域の観光ができるとともに、無形文化財への理解を深めます。

②史跡平泉寺の総合整備事業

国史跡白山平泉寺旧境内の概要

国史跡白山平泉寺旧境内は、かつての白山信仰の拠点寺院で、最盛期には四十八社・三十六堂・六千坊が建ち並び、寺領九万石（九万貫）、僧兵八千を有したと伝えられています。しかし、天正2年（1574）には一向一揆との戦いに破れ全山焼失しました。その後、平泉寺は再興されますが、境内は十分の一程度に縮小しています。そして、明治の神仏分離令に際して、平泉寺の寺号を廃し白山神社となりました。

勝山市教育委員会が平成元年度から実施している発掘調査によって、東西1.2km、南北1.0kmにも及ぶ広大な範囲に中世の遺構が広がっていることがわかりました。特に白山神社の南側に広がる南谷三千六百坊跡からは、川原石を敷き詰めた中世では国内最大の石畳道や、「六千坊」と呼ばれる多数の僧侶の住居群、階段状に築かれた石垣などが見つかるとともに、日本中世を代表する宗教都市が浮かびあがってきています。このような発掘成果を受けて、平成9年には、これまで14.6ヘクタールであった国史跡の範囲が約200ヘクタールに拡大されました。

事業の目的

現在、史跡の中心部にあたる平泉寺白山神社には、年間18万人近い観光客が訪れています。また、発掘調査を行ってきた南谷発掘地へも見学者が増えつつあります。しかし、現地には史跡の理解を深める施設や史跡公園が整備されていませんでした。

そこで、勝山市では、この貴重な史跡を保存し、後世に伝えるとともに、積極的に活用をはかっていくために、平成20年度から5か年計画で「史跡等総合整備活用推進事業」の採択を受けて、事業を実施しているところです。

事業の内容

今回の事業は、大きく2つに分けられます。

ひとつは、坊院の復元（歴史的建造物復元）や遺構の表示といった史跡の調査成果を現地で分かりやすく伝えるための事業です。史跡整備指導委員会など専門家の指導と助言を頂きながら、学術的な成果を尊重し、慎重に事業を進めています。

もうひとつは、平泉寺見学のための動線の確立と見学路、便益施設、サイン設置等の史跡を歩くための環境を整える事業です。

また、この2つの事業の核となる「まほろば」は、平泉寺の発掘調査や歴史、自然、白山信仰などを分かりやすく伝え、史跡探訪や自然探訪に向かう起点としての役割も担っています。まほろばの建物は木造平屋建てで床面積515.16㎡で、この事業のガイダンス施設としては最も大きな部類に入ります。建物内には、映像ホール（収容人数80名程度）や展示コーナー（平泉寺出土品を展示）のほか体験学習コーナー（見る、聞く、触れる、感じる、調べる、学ぶ）を設けています。

5 計画の実施の効果

①勝山左義長を活かした観光振興・地域活性化事業

文化財のデジタル化記録保存により、汎用性が高まり、勝山文化の正しい共通理解と知識を深めることができ、確実な伝承とともに文化遺産の継承意識の醸成を図ることができました。

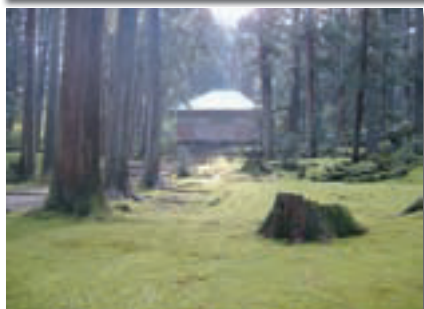
歴史文化ルーツの再認識を図り、将来的な文化財後継人材の底上げができました。

信頼性の高いテレビ番組による情報発信と普及啓発活動により、県民全体で勝山文化の価値を共有でき、正しい理解が得られました。

勝山文化の価値を高め、地域の人々の意識を結集させ、文化財に関わる地域の誇りとモチベーションを高めることに寄与しました。



白山平泉寺歴史探遊館まほろば



平泉寺白山神社（拝殿）



平泉寺白山神社境内

②史跡平泉寺の総合整備事業

発掘調査などの学術的な成果や整備工事の様子を情報発信することによって、マスコミへの登場が多くなり、注目が集まるようになりました。また、平泉寺を訪れる多くの人々が歴史や文化、自然を堪能できる動線を整えた結果、史跡の発掘地までの来訪者が増加しつつあります。さらに、ガイドンス施設を開設したことによって、来訪者への情報提供はもちろんのこと、地域の人と来訪者との交流が活発になってきました。



南谷（巧院群）の発掘調査



南谷（水路）の発掘調査

6 今後の予定

①勝山左義長を活かした観光振興・地域活性化事業

左義長の象徴である「櫓」と伝統文化の「技」を継承するための映像をデジタル保存します。また、左義長のルーツなど教育啓蒙のための子供向け絵本を作成します。様々な観点から保存継承していけるように事業を継続していきます。



御神火送り



どんど焼きの様子



どんど焼きの様子

②史跡平泉寺の総合整備事業

国史跡白山平泉寺旧境内の継続的な保護、管理、活用のなかで今回の事業は重要な通過点となりました。短期的には着実な効果がでていきますので、それをさらに発展させていきたいと考えています。

そのためには、ガイドンス施設、整備された発掘地を継続的に管理、活用していく必要があります。勝山市では、24年度から3か年計画で福井県の補助事業である「ふるさと創造プロジェクト事業」を用いて、まほろば周辺のハード整備と知名度アップのための全国発信を予定しています。

今回の事業を起爆剤として、国史跡白山平泉寺旧境内を核とする地域づくりを進め、末永く多くの人々に愛される特色ある史跡を目指したいと考えています。



発掘調査現地説明会



坊院（門と土塙）の復元工事